

# Vol.20 感染症が引き起こすがん&その対策は？

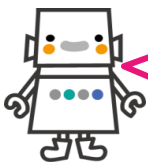
文責：医師 内田 賢

## 感染症が引き起こすがんの種類（主に日本では①②③）

- ①胃がん：ヘリコバクターピロリ菌
- ②肝臓がん：B型・C型肝炎ウイルス
- ③子宮頸がん：ヒト・パピローマウイルス
  
- ④バーキットリンパ腫：EBウイルス
- ⑤カポジ肉腫：HHV-8ウイルス
- ⑥成人T細胞白血病およびリンパ腫：HTLV-1ウイルス

細菌やウイルスなどの感染症が占める割合は、日本人のがんの原因の約20%を占める

### ①胃がん：ヘリコバクターピロリ菌

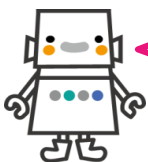


ピロリ菌はどうやって検査するの？

抗体の検査（採血）・尿素呼気試験・内視鏡・便中抗原などの検査があります。

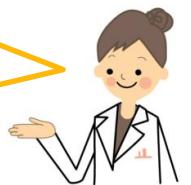
ピロリ菌は幼少期の経口感染です。

- ・ピロリ菌の感染があっても70%の人は消化器症状はありません。
- ・胃炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍の主な原因となります。
- ・胃がんの90%は、ピロリ菌に感染し、萎縮性胃炎を経て発生します。



ピロリ菌の陽性反応がでたらどうすればよいのですか？

除菌をお勧めます。  
2種類の抗生剤と胃酸の分泌を抑える薬を1週間内服します。



### ②肝臓がん：B型・C型肝炎ウイルス



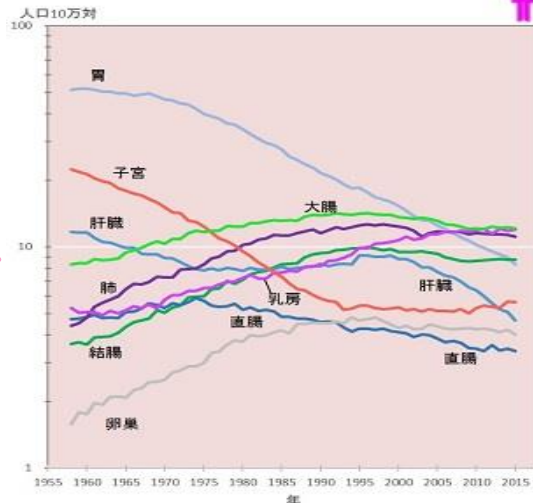
感染しているかどうか、知らない人は、一生に一度はB型およびC型肝炎ウイルス検査を受けましょう。ウイルスを保有していることが分かったら、精密検査を受けましょう。

# Vol.20 感染症が引き起こすがん&その対策は？ (つづき)

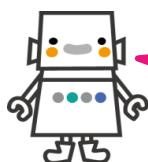
## ③子宮頸がん：ヒト・パピローマウイルス (HPV)

- 子宮頸がんの最も大きな原因は、性行為によるHPVが子宮頸部の細胞に感染することでおきます。持続的に感染することで、異形成を生じた後、浸潤がんに至ります。
- HPVには、150種類以上の型があります。15種類が発がんに関与します。
- 悪性度の高いHPV-16/18型が60%を占めます。

部位別がん年齢調整死亡率の推移  
(主要部位・対数)  
[ 女性 1958~2015年 ]

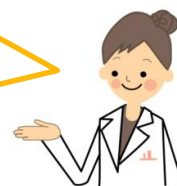


日本では、子宮頸がんの死亡率は増加傾向です。特に20代・30代で発見されることが多くなっています。



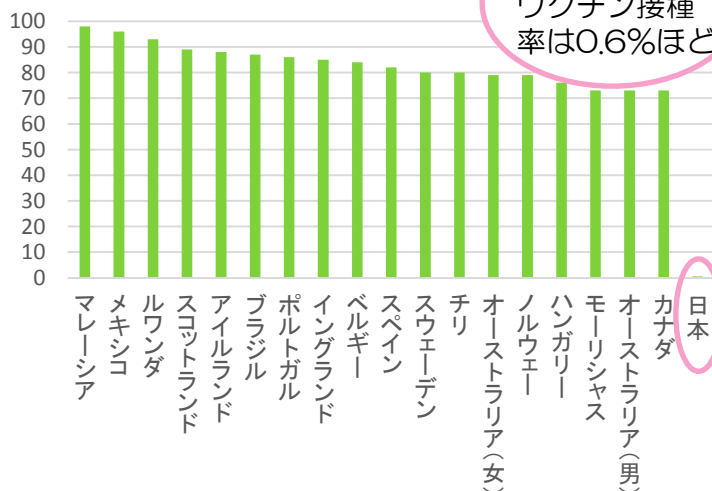
子宮頸がんを予防するには？

HPVワクチンは、HPVの感染や子宮頸部の異形成を予防する事ができます。子宮頸がんのほとんどが異形成を経由しているため、最終的に子宮頸がんを予防できると期待されています。



HPVワクチンによる子宮頸がんの減少効果は、60%と推定されます。重篤な副作用(疑い)は、1接種あたり、0.07%といわれています。

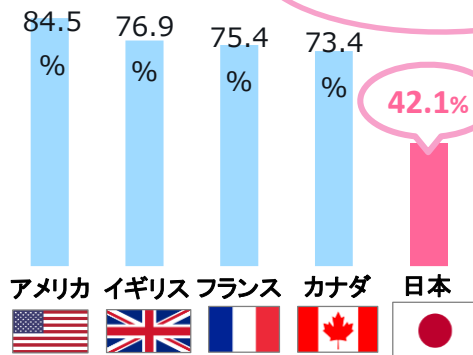
### <世界のHPVワクチン接種率>



日本ではHPVワクチン接種率は0.6%ほど

### <世界各国の子宮頸がん検診受診率>

(OECD加盟国における20~69歳の女性、2015年)



日本では、子宮頸がん検診受診率が42%

まずは、子宮頸がん検診が有効です！面倒がらずに(恥ずかしがらずに)1回/年には受けましょう！！



当センターには、保健指導担当の保健師、管理栄養士、健康運動指導士がいます。健診の際は、お気軽にご相談ください。